

特別支援学級 自立活動指導案

令和8年7月8日(水)
天童市立第一中学校
特別支援学級
(3年生1名2年生5名)
指導者 門脇 宏樹
場所 ピロティ

単元名 「みんなでつなぐモルック大会～ルールと環境を工夫して、全員で楽しもう」

1. 単元について

本学級の生徒は、

。活動を通して、仲間と関わりながら、自分の気持ちを調整し、相手を意識したコミュニケーションを経験できるようにしたい。

2. 自立活動の区分

(1) 心理的な安定

・土の床面によるイレギュラーや敗北など、思い通りにいかない状況を受け入れ、事前の約束(深呼吸やリフレッシュスペースへの移動)に沿って気持ちを切り替える。

(2) 人間関係の形成

・6人のメンバーで協力し、作戦や役割分担を決めてゲームを円滑に進める。

(3) 身体の動き

・的(スキットル)との距離を捉え、適切な力加減(下手投げ)を意識してコントロールする。

(4) コミュニケーション

・友だちのプレーに対して肯定的なフィードバック(応援・賞賛)を送り合う。

3. 生徒の実態と個別のねらい

別紙に記載

4. 支援の工夫

(1) 「活動への見通しが持てるようになるための工夫」

・活動の流れや得点の経過を掲示し、「投げる」「モルックを元に戻す」「得点を記入する」などをイラストで確認する。また、学習カードを通して、単元の流れが分かるようにする。

(2) 「安心してゲームに取り組めるようになるための工夫」

・チーム編成は、生徒同士の関係性や安心感を考慮して行う。また、「30点制」や「応援ポイント」制度の導入により、勝ち負けにこだわり過ぎず、集団で協力して楽しめるようにする。

(3) 「コミュニケーション力を高めるための工夫」

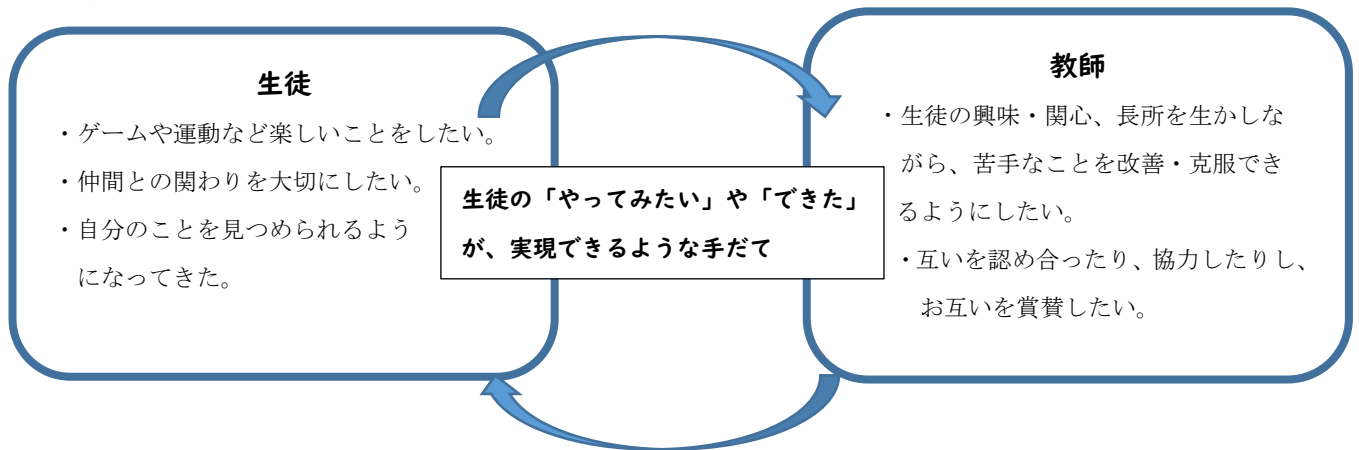
・「相談する」「応援する」「喜び合う」などの姿が見られた場合は、「グリーンカード」を出して、教師が肯定的な姿を視覚的に価値付ける。

5. 単元計画（全5時間）

時	学習内容	具体的な活動
1	モルックを知ろう。	下手投げの基本練習を通して、ピンを倒す面白さを味わう。
2	チームでモルックをしよう。	順番と役割分担、ピンの立て直し方を覚える。
3	作戦と「特別ルール」を決めよう。	チーム会議、誰がどこを狙うか、ハンデ等の設定を行う。
4 本時	モルック大会をしよう①。	環境に合わせてゲーム運営を行う。
5	モルック大会をしよう②。	単元の振り返り、道具のメンテナンスなどを行う。

6. 本時の学習活動

（1）生徒と教師の内省の往還（実施アンケートより）



（2）本時の目標

- ① みんなで決めた「特別ルール」を守り、役割（得点・ピンの立て直しなど）を果たしながら協力してゲームを進めることができる。
- ② 地面の凸凹によるミスや失点時も、事前の約束（深呼吸、リフレッシュスペースに行くなど）を実践して感情をコントロールする。
- ③ 友だちのプレーに対して、肯定的な言葉（「ドンマイ」「ナイス」）や応援の声をかける。

（3）評価

- ① ルールを守りながら、最後までゲームを楽しむことができたか。
- ② 仲間と相談したり声を掛けたりしながら、活動をすることができたか。
- ③ 気持ちを切り替えて活動に参加することができたか。

